『令和元年台風第 19 号に関する

市民アンケート』

調査結果報告書

海老名市市長室危機管理課　令和２年１月

1　目的

令和元年台風第19号の接近に際し、令和元年10月12日（土）の夕方から夜にかけて城山ダムからの緊急放流が予測されたことから、海老名市では、相模川の浸水想定区域内の約54,000名に対し、同日の15時20分に『警戒レベル４避難指示（緊急）』を発令し、避難を指示いたしました。その結果、市内の避難所には過去最大となる約5,000名の方が避難をされました。

今後、相模川の氾濫等発生も考えられることから、より多くの方に避難していただき、逃げ遅れをなくすためにはどうすれば良いかについて検討することを目的に、市民アンケートを実施しました。

2　調査期間

令和元年11月22日（金）～12月23日（月）（32日間）

3　調査対象

相模川の浸水想定区域内に在住の約54,000人の内、無作為に抽出した2,000人

4　調査方法

郵送配布及び郵送回収

5　回答状況

発送数 （A）	返戻数 （B）	回答数 （C）	回答率　% （C/（A-B））
2,000	7	1,011	50.72%

6　調査結果

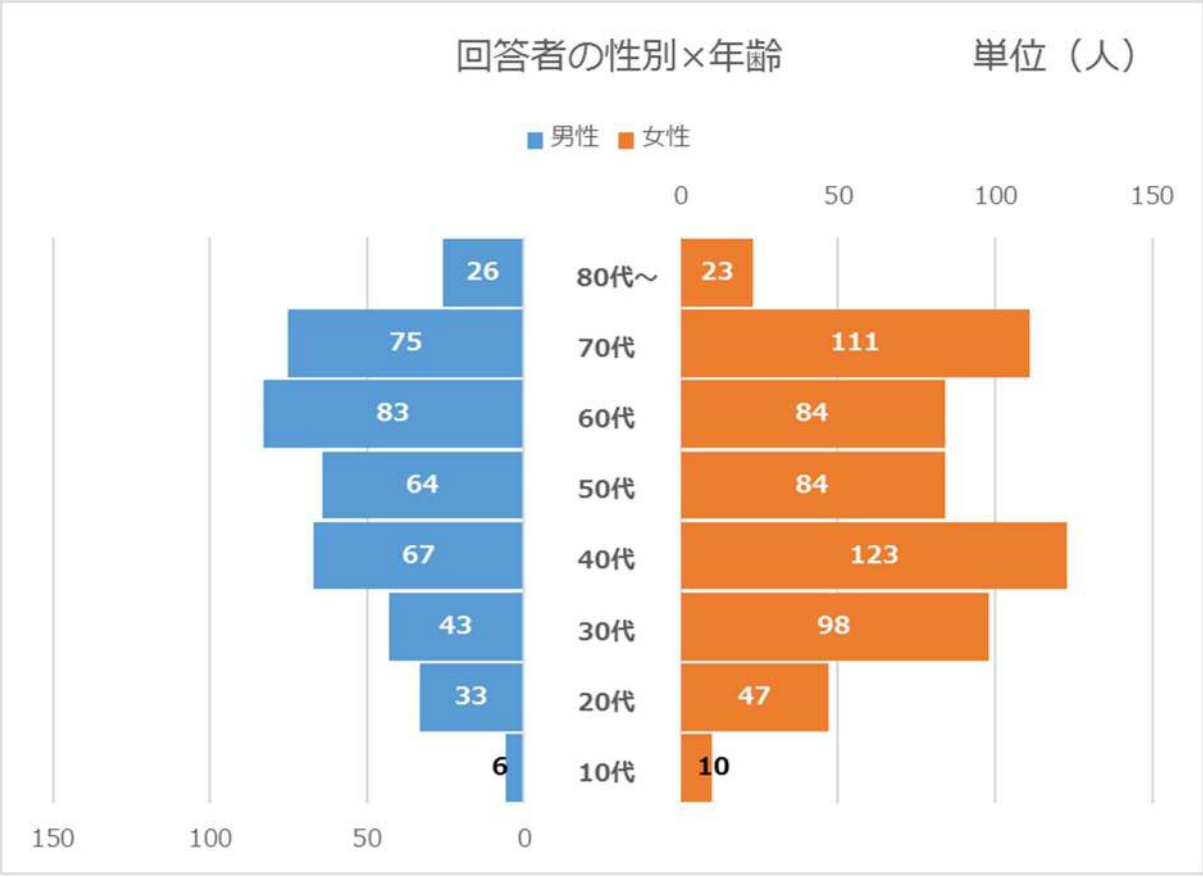
以下のとおり

1　回答者の属性

❑性別×年代別

回答率は、性別においては、**女性が男性の約1.5倍**となります。全体的に女性の回答率が多く、10、30、40代においては、女性が男性の回答率の約2倍となりますが、60代でほぼ同等、80代では男性の回答率が女性を上回っています。年代別においては、半数以上回答した世代が50から70代であり、70代をピークに年代が上がるごとに回答率が上昇する傾向がありますが、80代で減少しています。性別と年代別を掛け合わせると、**40代と70代の女性の回答数が多く**、関心の高い世代と言えます。

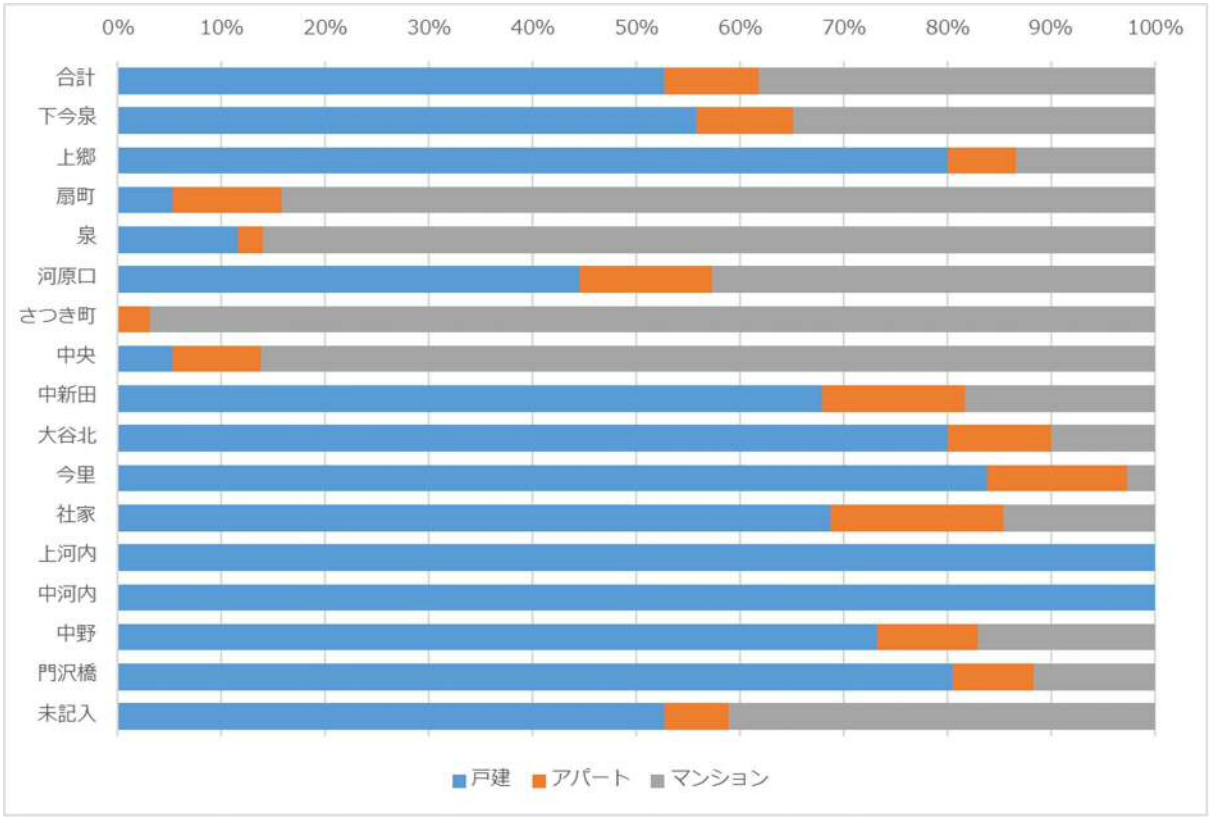
		発送数	回答数	回答率(%)
性別	男	1,004	398	39.5%
	女	989	587	59.1%
	未記入	0	26	
年代別	80代以上	134	50	37.3%
	70代	244	193	79.1%
	60代	252	173	68.7%
	50代	303	152	50.2%
	40代	419	194	46.3%
	30代	343	144	42.0%
	20代	252	80	31.7%
	10代	46	16	34.8%
	未記入	0	9	
合計		1,993	1,011	50.7%



❑居住地区×住居タイプ

回答者の居住地区及び住居タイプの関係は、**「上郷」、「上河内」、「中河内」の戸建て率が高く**、**「扇町」、「泉」、「さつき町」、「中央」のマンション率が高い**など、地域による住居タイプを踏まえ、以降の分析・考察を行うこととします。

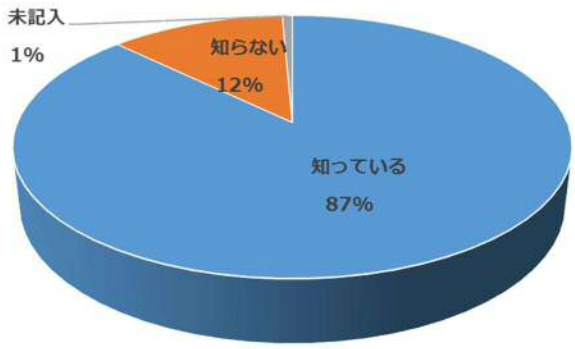
	戸建て				アパート					マンション					未記入	合計
			平屋	2階建て以上			1階	2階	3階以上			1階	2階	3階以上		
下今泉	24	56%	0	24	4	9%	0	4	0	15	35%	2	1	12	0	43
上郷	36	78%	2	34	3	7%	0	2	1	6	13%	0	0	6	1	46
扇町	1	5%	1	0	2	11%	1	1	0	16	84%	1	0	15	0	19
泉	5	12%	0	5	1	2%	0	0	1	37	86%	5	3	29	0	43
河原口	49	44%	3	46	14	13%	6	6	2	47	42%	3	6	38	2	112
さつき町	0	0%	0	0	1	3%	1	0	0	31	97%	10	6	15	0	32
中央	5	5%	0	5	8	9%	0	3	5	81	86%	2	8	71	0	94
中新田	93	67%	4	89	19	14%	8	8	3	25	18%	2	4	19	1	138
大谷北	16	80%	2	14	2	10%	2	0	0	2	10%	2	0	0	0	20
今里	31	84%	1	30	5	14%	2	3	0	1	3%	0	0	1	0	37
社家	33	67%	2	31	8	16%	4	2	2	7	14%	1	1	5	1	49
上河内	4	100%	0	4	0	0%	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	4
中河内	13	100%	2	11	0	0%	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	13
中野	30	73%	2	28	4	10%	1	2	1	7	17%	1	0	6	0	41
門沢橋	62	81%	4	58	7	9%	4	3	0	9	12%	2	2	5	0	77
未記入	127	52%	8	119	15	6%	5	5	5	99	41%	11	19	69	1	242
合計	529	52%	31	498	93	9%	34	39	20	383	38%	42	50	291	6	1,011



2　避難について

❑ハザードマップの知識の有無

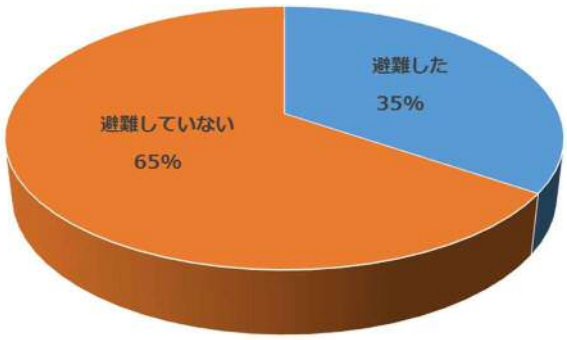
Q1.ハザードマップを知っていますか？	n	%
知っている	882	87%
知らない	122	12%
未記入	7	1%
合計	1,011	100%



❑避難の有無

浸水想定区域内の住民約54,000人に対し、市の避難所に約5,000人が避難した（避難所避難率：約9%）ことから、約26%の人は市の避難所以外に避難したことになります。

Q2.台風19号の際に避難しましたか？	n	%
避難した	349	35%
避難していない	662	65%
合計	1,011	100%



❑ハザードマップの知識の有無×避難の有無

ハザードマップの知識の有無と避難の有無との相関性は、僅かながら「ハザードマップ（下表においてHM）を知らない人」の方が避難していない傾向があります。

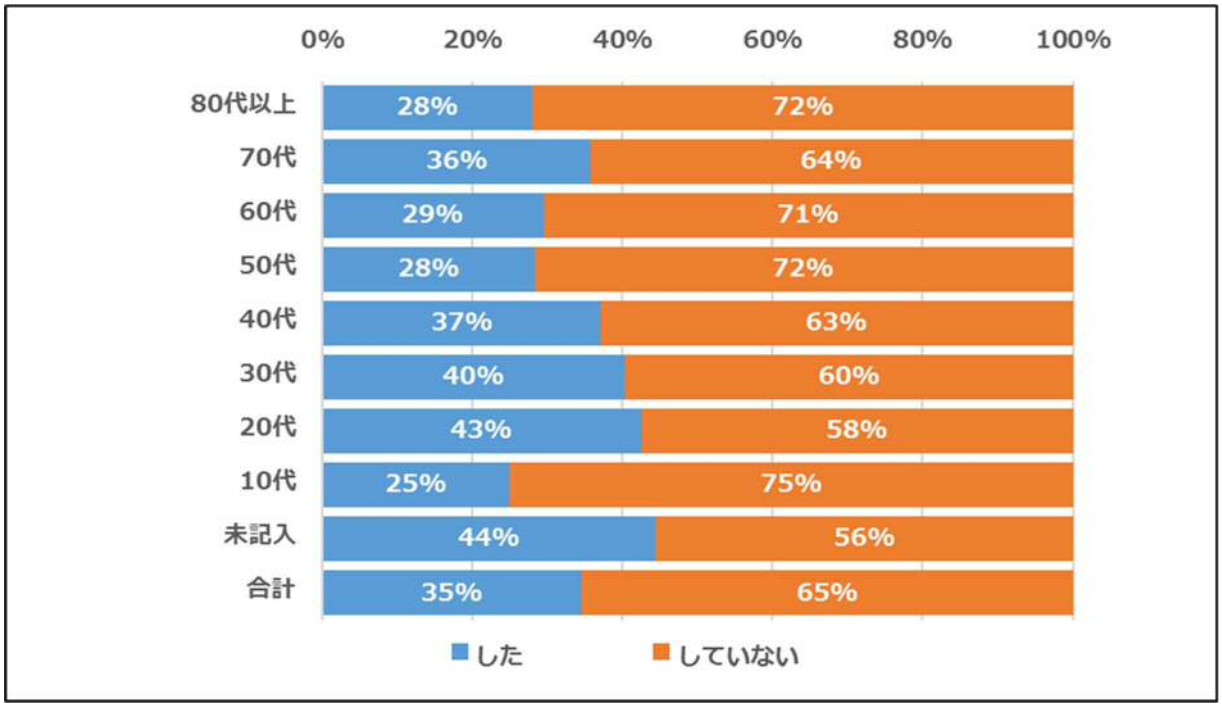
		避難の有無		合計
		避難した	避難していない	
HMの知識	知っている	311 35%	571 65%	882 100%
	知らない	35 29%	87 71%	122 100%
	未記入	3 43%	4 57%	7 100%
合計		885	126	1,011

❑避難の有無×年代別

避難の有無を年代別に分析したとき、**20、30代の避難率が約４割と最も高い**結果でした。後述しますが、当該年代は「避難所」よりも「親戚・知人宅」に避難した割合が高いなど、「避難先＝避難所」といった固定観念にとらわれず、避難に対し、柔軟な考え方を持つものと推察されます。

なお、年代別の回答数との相関では、一般に高齢者世代ほど回答率が高く、避難した割合が減ることから、避難が難しい方の関心が高かったものと思われます。

	した	していない	合計
80代以上	14 28%	36 72%	50 100%
70代	69 36%	124 64%	193 100%
60代	51 29%	122 71%	173 100%
50代	43 28%	109 72%	152 100%
40代	72 37%	122 63%	194 100%
30代	58 40%	86 60%	144 100%
20代	34 43%	46 58%	80 100%
10代	4 25%	12 75%	16 100%
未記入	4 44%	5 56%	9 100%
合計	349 35%	662 65%	1,011 100%



❑「避難していない」方の内訳

Q2.で「避難していない」と回答した662人の避難しなった理由は右の表のとおりです。

80%以上の方が、「自宅が安全」と判断しており、今後、逃げ遅れを無くすために、早期に何らかの対策を検討しなければならないのが、**「避難できなかった」、「知らなかった」、「その他」（赤字記載）**を回答した、約18%の方となります。

Q3.避難しなかった理由は何ですか？（n=662）	n	%
自宅が安全	543	82%
①避難できなかった	40	6%
①知らなかった	16	2%
①その他	61	9%
未記入	2	0%
合計	662	100%

また、「自宅が安全」と回答した、543人の住居を見てみると、**「戸建て（平屋）」、「アパート(１階)」、「マンション(１階)」**に居住している人が若干数見られ、相模川洪水時の浸水想定区域内であることからも、本来的には避難の必要性がある方だったと判断でき、上記と同様に早期に何らかの対策を検討しなければならないと考えられます。

Q3.で「自宅が安全」と答えた人の住居（n=543）	n	%
②戸建て（平屋）	11	2%
戸建て（２階建て以上）	173	32%
②アパート（１階）	14	3%
アパート（２階）	15	3%
アパート（３階以上）	12	2%
②マンション（１階）	19	3%
マンション（２階）	39	7%
マンション（３階以上）	257	47%
未記入	3	1%
合計	543	100%

「避難していない」方で早期に何らかの対策が必要な方の人数（N＝1,011）		n	%
自宅が安全	②戸建て（平屋）	11	
	②アパート（１階）	14	
	②マンション（１階）	19	
①避難できなかった		40	
①知らなかった		16	
①その他		61	
合計		161	16%

❑「避難していない」方で早期に何らかの対策が必要な方の年代別特徴

高齢者世代は、足が痛い、腰が痛いなどの「自身の身体的理由」で避難所に行けないとの声が多く挙げられ、**関連して、その年代の親を持つ50代からは「高齢の親がいる」**との理由が多く挙がっています。**各年代に共通して挙げられた項目が「ペット」**でした。**子育て世代は、「赤ちゃん・幼児がいる」**などの理由も多く、『子供を避難所に連れていくことで、周りの避難者に迷惑を掛けてしまう』などの他者を気遣う意見もありました。また、近傍の避難所が自宅と同様に浸水想定区域に存することや、地盤高が変わらないなどの意見も各年代共通して挙がっていました。

年代別	総数	順位		
		1	2	3
80代以上	8 5%	避難を促されなかった	自身の身体的理由 ※足が悪い。腰が痛いなど	
70代	32 20%	ペットがいる	自身の身体的理由 ※足が悪い。腰が痛いなど	家族の身体的理由
60代	27 17%	正常性バイアス ※自分は大丈夫だと思った。	ペットがいる	避難所 （遠い・浸水想定区域）
50代	34 21%	高齢の親がいる ※寝たきりで連れていけない	ペットがいる	避難所 （遠い・浸水想定区域）
40代	22 14%	ペットがいる	避難所 （遠い・浸水想定区域）	幼児がいる
30代	27 17%	ペットがいる	赤ちゃん・幼児がいる	仕事で不在だった
20代	10 6%	ペットがいる	仕事で不在だった	外出していた
10代	1 1%	寝ていた		
合計	161 100%			

❑**「避難していない」方の要望事項（Q5.～6.）【複数回答】**

「避難していない」方662人について、災害対策への要望事項を世代別に分析した結果、**各世代共通して『情報発信の充実』を回答した人が多く、内容には「防災行政無線の改良」、「聞き取りづらい」などの意見が多数**挙げられていました。また、**『避難所の拡充』については、ペット対応可能な避難所に対する要望が多く**ありました。10～30代などの若い世代ほど『現状でよい』と回答する人が多い一方で、高齢者世代になるにつれ、避難所までの移送手段の支援を要望する傾向があります。

世代別	回答者数	現状でよい	情報発信の充実	避難所の拡充	移送手段の確保	その他	合計
80代以上	36 100%	4 11%	16 44%	6 17%	10 28%	3 8%	39 108%
70代	124 100%	24 19%	47 38%	35 28%	24 19%	8 6%	138 111%
60代	122 100%	21 17%	53 43%	35 29%	22 18%	12 10%	143 117%
50代	109 100%	20 18%	39 36%	44 40%	22 20%	13 12%	138 127%
40代	122 100%	17 14%	54 44%	45 37%	21 17%	13 11%	150 123%
30代	86 100%	22 26%	34 40%	24 28%	13 15%	8 9%	101 117%
20代	46 100%	16 35%	17 37%	14 30%	4 9%	1 2%	52 113%
10代	12 100%	4 33%	5 42%	1 8%	1 8%	1 8%	12 100%
未記入	5 100%	1 20%	0 0%	0 0%	1 20%	3 60%	5 100%
合計	662 100%	129 19%	265 40%	204 31%	118 18%	62 9%	778

●「その他」の内訳

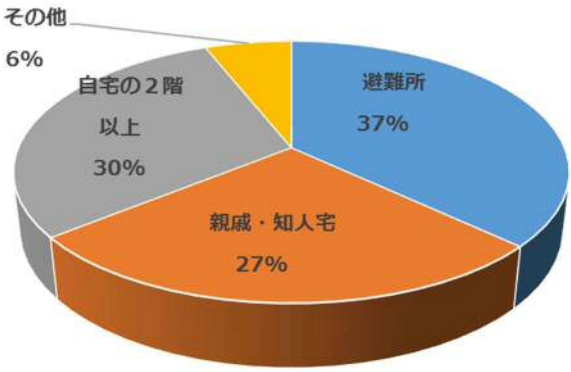
・河川の護岸整備　・遊水池或いは地下貯水場の確保

・車の安全確保　・自宅のガラス強化など補強工事の補助

・訓練の実施

❑「避難した」方の避難先

Q7.どこに避難しましたか？	n	%
避難所	129	37%
親戚・知人宅	95	27%
自宅の２階以上	104	30%
その他	21	6%
合計	349	100%



●その他の内訳
・富士ゼロックス駐車場　・パチンコ店の駐車場　・スーパーの駐車場
・ホテル　・勤務先　・サービスエリア

❑年代別避難先

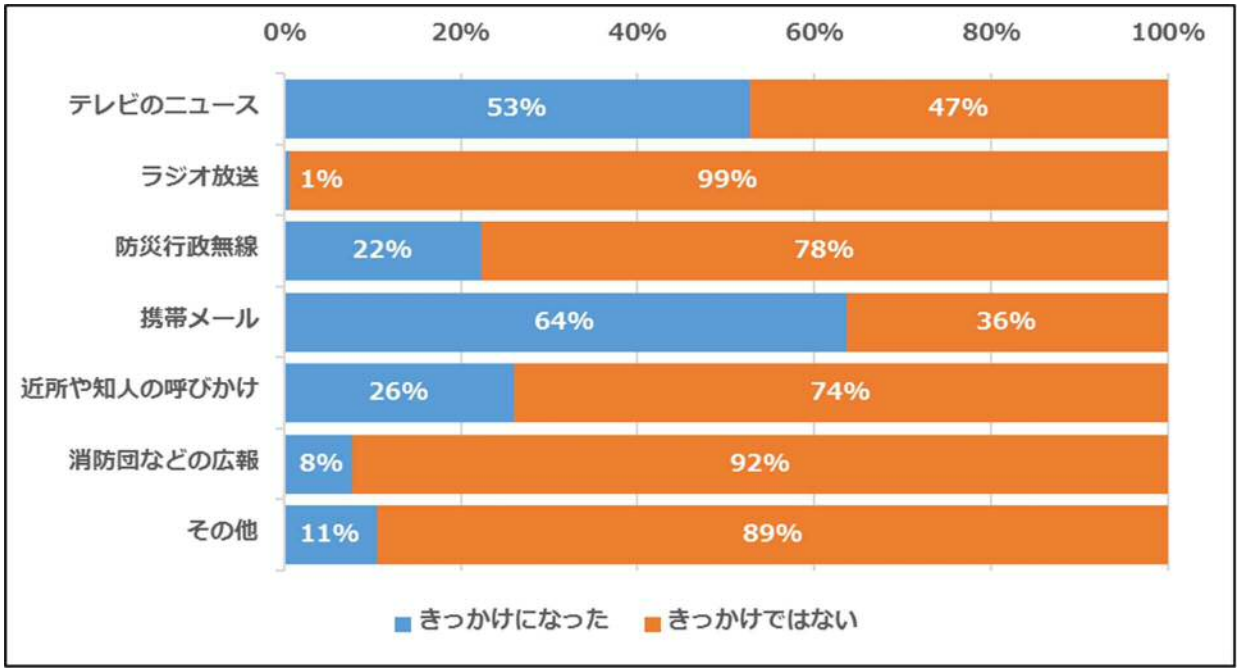
20～30代は主に実家などの『親戚・知人宅』に避難する傾向が強く、小さい子供がいるためと推察されます。40代など児童・生徒がいる世代や60代は、子供の通っている学校に避難するか自宅で垂直避難を行うなど二極化しています。高齢者世代は、身体的な機能の差により70～80代で水平・垂直避難に大きな差があると推察されます。

	避難所	親戚・知人宅	自宅の２階以上	その他	合計
80代以上	2 14%	4 29%	7 50%	1 7%	14 100%
70代	39 57%	10 14%	19 28%	1 1%	69 100%
60代	18 35%	9 18%	20 39%	4 8%	51 100%
50代	12 28%	14 33%	12 28%	5 12%	43 100%
40代	25 35%	18 25%	25 35%	4 6%	72 100%
30代	20 34%	22 38%	13 22%	3 5%	58 100%
20代	10 29%	16 47%	6 18%	2 6%	34 100%
10代	2 50%	1 25%	0 0%	1 25%	4 100%
未記入	1 25%	1 25%	2 50%	0 0%	4 100%
合計	129 37%	95 27%	104 30%	21 6%	349 100%

❑避難したきっかけ

Q2.で「避難した」と回答した349人の避難したきっかけを分析したところ、**「携帯メール」が圧倒的に多く**、次いで**「テレビのニュース」**でした。台風当日の10月12日は、『えびなメール』、『緊急速報メール』共に、それぞれ６回の発信（内訳：避難情報４、緊急放流2）を行っており、避難を促す効果が高く、また、緊急速報メールの普段耳にしないチャイム音が印象に残ったものと考えられます。「テレビのニュース」に関しては、城山ダムの緊急放流に伴う放送が大きな要因と考えられます。

Q8.避難したきっかけは何ですか？【複数回答】	n	%
テレビのニュース	184	53%
ラジオ放送	2	1%
防災行政無線	78	22%
携帯メール	222	64%
近所や知人の呼びかけ	91	26%
消防団などの広報	27	8%
その他	37	11%



●その他の内訳
- 城山ダムの緊急放流が予告されたため。
- 家族の呼びかけ又は相談して決めた。
- 台風１５号の際、雨風の音が怖くて不安で眠れず、子供が避難したいと言ったため。
- 自宅から川の水位が見え、その様子に恐怖したため。
- SNS、ネットニュース
- 避難していると思われる車が多数走っているのが見えたため。
- 離れて住む子供から避難を促されたため。
- ハザードマップで浸水想定区域と知っていたため。

3　避難所の実態　※Q7 において、「避難所」を選択した方 129 人を対象

❑避難者の避難先

避難者の居住地と避難所を北部・中部・南部の３地域に分け、更に避難所を浸水想定区域の内外に分け、居住地域と避難した避難所の相関関係を分析しました。

傾向としては、北部居住者の100%、中部居住者の約90%、南部居住者の約85%が**同一地域へ避難している傾向（太枠囲み部分）があり**、また、居住地域が南にいくにつれ、浸水想定区域外の避難所に避難する割合が高く、そのまま東方向に大きく移動した結果が見えます。全体的には、**浸水想定区域内の避難所に避難する割合が浸水想定区域外の約２倍**と高く、**洪水を想定した高台への避難の意識が希薄**であると考えられます。

	避難先									合計
	浸水想定区域内				浸水想定区域外				その他	
居住地域	北部	中部	南部	小計	北部	中部	南部	小計		
北部	15 83%	0 0%	0 0%	15 83%	3 17%	0 0%	0 0%	3 17%	0 0%	18 100%
中部	0 0%	17 57%	1 3%	18 60%	0 0%	10 33%	0 0%	10 33%	2 7%	30 100%
南部	2 5%	0 0%	21 51%	23 56%	0 0%	3 7%	14 34%	17 41%	1 2%	41 100%
未記入	11 28%	12 30%	4 10%	27 68%	2 5%	4 10%	4 10%	10 25%	3 8%	40 100%
合計	28 22%	29 22%	26 20%	83 64%	5 4%	17 13%	18 14%	40 31%	6 5%	129 100%

	居住地域（大字）	避難所
北部	下今泉、上郷、扇町、泉	柏ケ谷小、上星小、今泉小、今泉中、下今泉ｺﾐｾﾝ、有鹿小
中部	河原口、さつき町、中央、中新田、大谷北、今里	海老名中、勝瀬文化ｾﾝﾀｰ、中新田ｺﾐｾﾝ、海西中、国分寺台文化ｾﾝﾀｰ、大谷小、大谷中、大谷ｺﾐｾﾝ、中新田小
南部	社家、上河内、中河内、中野、門沢橋	杉久保小、社家ｺﾐｾﾝ、社家小、有馬小・中、本郷ｺﾐｾﾝ、門沢橋小、門沢橋ｺﾐｾﾝ

❑避難所への携行品【複数回答】

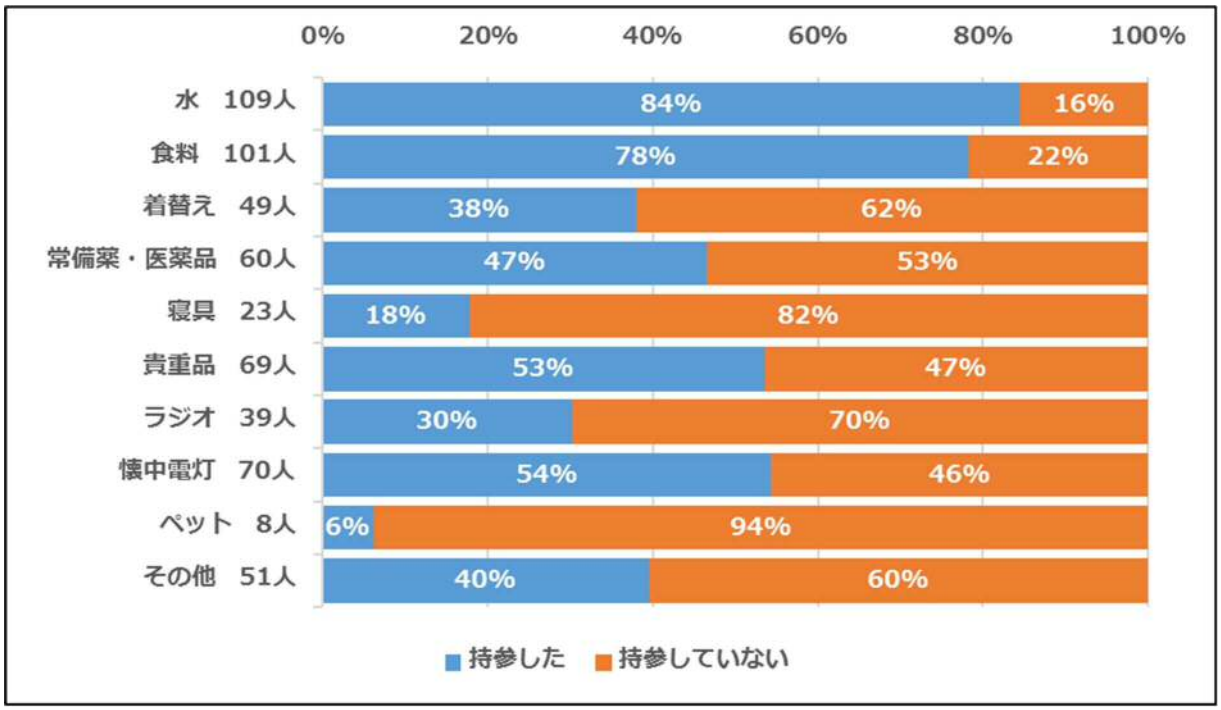
避難所避難者の129人を対象に携行品を集計した結果、**約80%の方が水・食料を持参**していたことが判明しました。一方で、スリッパなどごく当たり前の物や、そもそも何を持参すればいいか分からないなどの意見もありました。

Q9.避難の際に持参したものは何ですか【複数回答】	n	%
水	109	84%
食料	101	78%
着替え	49	38%
常備薬・医薬品	60	47%
寝具	23	18%
貴重品	69	53%
ラジオ	39	30%
懐中電灯	70	54%
ペット	8	6%
その他	51	40%

●ペットの種類
・犬　・猫　・亀

●その他の内訳
・スマートフォン　・タブレット
・モバイルバッテリー
・洗面用具　・子供の用品
・レジャー、キャンプ用具

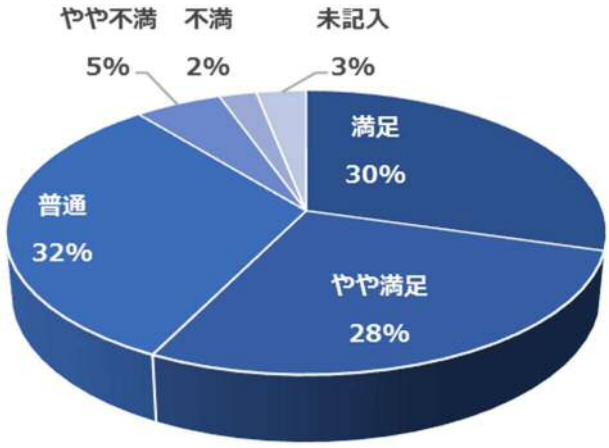
●携行品に関する意見
・トイレ使用時にスリッパがなく、非常に困った。いい経験になった。
・すぐに帰れると思い、印鑑、通帳は持参せず、マスク、スリッパを持参すべきだった。
・初めての避難で何をもっていけばいいか分からない。例示がほしい。



❑避難所における満足度

避難所における対応は、**半数以上が満足**と感じており、**約90%の方が普通以上**と回答しました。満足度ごとの意見は以下のとおりです。

Q11.避難所の対応はいかがでしたか	n	%
満足	38	30%
やや満足	36	28%
普通	41	32%
やや不満	7	5%
不満	3	2%
未記入	4	3%
合計	129	100%



【「満足」の方の意見】

- 先生の顔が見れただけで安心した。知っている人が開設しているのは子供も安心する。当日のバザーが中止となり、余っていたフランクフルトやポップコーンなどを卒業生が中心に作って配ってくれ、とてもうれしかった。息子も手伝っていたが、気分が変わり不安な気持ちから解放されていた様子でした。運営されていた方々に感謝です。
- 市の職員は夜間も寝ずに、とても親切に対応いただき感謝しています。TVで情報が確認でき安心しました。
- 中学生がよく働いてくれたのが印象的でした。
- 水やパンの配布に小学生が手伝っていた。配慮いただきながら情報を与えてくれた。
- 車いすでの避難でしたが大変良くしていただきました。
- 係の人が良く世話をされているのを見て、避難して良かったと思います。
- 初めての避難所経験でしたが整然と配布物や別室への移動の案内がされ状況説明も定期的にあり、自宅にいるより安心できた。
- コミセンに避難して良かった。次の時には用意しておくべきものが分かりました。トイレが足りません。
- 避難所でペットを受け入れていただき助かった。職員や教員がよく動いていて感謝。避難者に協力を呼び掛けていたこともよかった。
- 息子が知的障害があるので、いつもの学校に避難できたので落ち着いていました。
- 学校の先生やボランティアの方々がとても頑張っていた。
- ボランティアの方々の対応が丁寧で親切でした。一時的に停電にもなりましたが、電気が使えて助かった。コミセンは綺麗で快適
- 朝まで避難させてもらったが、最後まで親切に対応していただき、感謝でいっぱいです。

【「やや満足」の方の意見】

- 人生はじめての避難で戸惑いましたが有鹿小の先生方がやさしい言葉をかけて下さり安心しました、この後の避難の参考にしていろいろ勉強しています、準備に力を入れたいと思います。
- 夫が認知症で周りの人に迷惑をかけないよう、どのように対処したらいいか困りました。
- 初めての避難で不安があったが、職員が親切に対応してくれた。
- ０歳児がおり、和室に案内されたのがありがたかった。職員にはよくしていただいた。エアコンの温度調整が部屋ごとにできるとよい。
- 受け答えが優しく安心できた　ニュースをスクリーンで写していたので情報が分り良かった。予定より早く電気が消えたので停電なのか消灯なのか説明してほしかった。
- 障がい者の人用に長椅子やベッドがあると助かります。
- 初めてで勝手が分からず不安があったが、大勢が地域の方だったので気持ち楽だった。
- スタッフは一生懸命やっていた。長期間になる場合は、避難者が協力するシステムがあればよい。積極的に訓練に参加する必要性を感じた。
- 避難所で畳やマットレス、寝袋、水、パンを準備していただきありがたかった。
- 初めての体験でしたが、他人の持ち物をみて良いと思うものが分かりました。
- スタッフの方はみなさんいい人でとてもよかった。電源を使用していいのか等分からないことが多い。小さい子がいるので、周りに気を使うので専用の場所が欲しい。
- 皆協力し合いとても心強かった。テレビがあると安心
- 職員も自宅等の状況が心配な中、業務に従事してくれたことに感謝

【「普通」の方の意見】

- 市職員が声掛けをしており安心できた。
- もっと細かな情報がほしかった。情報がなく不安だった。
- ４Fの教室に案内され、机と椅子をおかりしてすわっていたのですが初めての避難で学校まで歩いたので、服、ズボン、ビッショリで着替えも持ってなく、ビッショリのままいました。服類をふく古いものでも良いので拭く物とかクッションがあればと思いました。７７才の年寄りでしたので、足を痛めていた事もあり、４Fまで階段は大変でした。トイレの場所も分かり易くお願いします。
- 初めてだったのでわかりませんが、後で知ったのですが、若い女性が、いやな顔をせずに、自然な笑顔で人々の世話をしれくれました。
- 病気を抱えている私には大勢いる中での避難生活が苦です。
  病人の避難はどのような方法があるのか分からない。
- パンが少ない。食料をあまり持ってこれなかったのでお腹が空いた。
- 飲み物がなかった。急だったため、自分たちで持ってきた水だけでした。
- 赤ちゃん連れの人と分けた方が良いと思いました。
- 学校の先生は非常時だが親切。赤ちゃんを連れての避難が心配だったが、離乳食の温めにレンジを使わせてもらった。
- 建物の２階に案内されたので、避難の意味があったのか疑問

【「やや不満」の方の意見】

- 皆さん一生懸命に対応してくれました。ありがとうございました。不安で休まるものではありませんが、せめて床にクッション性の有る物が必要と思いました、ブルーシート１枚では、すわっているのが大変でした。特にトラブルもなく、次の日の朝2時までお世話になりました。
- 市職員等の適切な指示、指導が不明確であった。
- 毛布は充分置いてあった。テレビ等でも情報を知りたかった。水が１世帯1本しかないので不満でした。1人１本欲しかった。
- 一人で避難した人と家族で避難した人と部屋を分けた方がいいのでは。お年寄りは子供の声をうるさいと思う方も多い。

【「不満」の方の意見】

- 高齢者がいる為、体育館に入る時に靴を脱いだりするのに椅子もなく大変だった。
  床に敷物もなく椅子もない状態だったのでしんどかった。水も各自用意するように言われ、自販機もなく用意できなかった。事前に避難所の状態が分かれば敷物や水などを用意していかれるので避難所の様子を前もって教えてほしい。水が出ると言うことで2階の教室に階段で移動したが高齢者のいる人には大変だった。避難した人の問題なのですが携帯の着信音を大音量にしていたり、夜中まで大声でお喋りしている人がいてとても疲れた。
- 雨の中歩いて避難所に行った人はぬれた状態で書類を書かなければならず、後で回収しても良かったのでは。靴入れのビニール、毛布、水がなかった。パンのみ配布あり。高齢者のために工レベーターのある避難所にしてほしい。
- 備蓄倉庫は校舎内の浸水しないところに設置するべき。

❑避難所に対する要望

避難所に対する要望は、**①ペットに関すること**、**②備蓄品に関すること**、**③収容エリアに関すること**、**④車両での避難及び移送に関すること**、**⑤避難所情報に関すること**の５つに大別され、主な内容は以下のとおりです。

●避難所に関する要望等

【ペットに関すること】

・ペットはケージに入れれば、受入してもらえるようにしてほしい。
・ペット可の避難所を用意してほしい。ペットの同行避難が不可のため家族が家に残った。
・ペットがいたため、車から出なかったので対応は不明
・避難所にペットを連れてきた人がいて部屋の中に入れていた人がいると聞いた。
アレルギー、毛、喘息などの病気を持った人もいるので、部屋を別けたり、車中避難にしてもらうなど配慮してほしい。高校も開設してほしい。

【備蓄品に関すること】

・夕食に缶詰のパンが出たが油が酸化していて臭くて食べられなかった。
水はありがたかった。自分の口に合うものを少しでも持って行けば良かった。
・備蓄のごはんが不味くて食べられない。周りの人も殆んどが捨てていた。
・人数分の水や災害備蓄品がもらえなかった。
・持参したお茶のみでは足りなかった。ご飯をふやかすのに水の配布があれば助かった。

【収容エリアに関すること】

・子供がいるとうるさくて気を使うので別部屋だとありがたい。
・高齢の避難者と同じ部屋だったが、冷房を入れることに反対され、汗をかきながら過ごした。廊下に出ると同じ理由で部屋を出た人がおり、強弱冷房で部屋を別けるべき。
・幼児がいるが、コミセンにキッズルームがあり助かった。オムツを捨てるところがあると助かる。
・床が固く一晩でも体が痛い。赤ちゃんがうるさく怒られるかもと不安だったが、子供が多い部屋で助かった。
・子供がいる世帯、高齢者世帯を別けるなどの工夫が必要

【車両での避難、移送に関すること】

・駐車場がなく避難を諦めた人もいたため、駐車場の確保を。
・駐車場を確保してほしい。最初に行った避難所は満車だった。
・高齢者の為に何らかの方法で搬送して頂けるとありがたいと思いました。
結局、御近所さんのお世話になりました。
・事前にわかる風水害の場合は要配慮者を避難所まで移送してほしい。

【避難所情報に関すること】

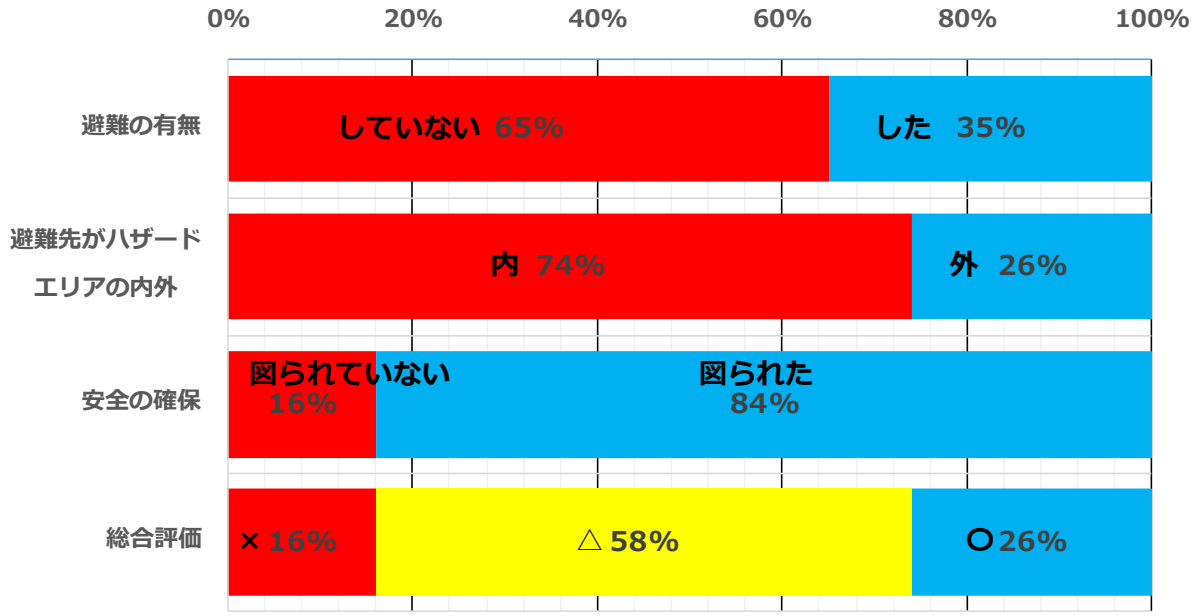
・避難所の情報を詳しく教えてほしかった、入口の場所（正門、裏門）、ペット可、不可駐車場の有無など。
・具体的な危険な内容で、どこに避難した方がいいか情報、指示を伝えてほしい。行政の方で民間の施設で緊急の時に使わせてくれるところを市民に情報を伝えてほしい。
・避難所の状況をリアルタイムで発信してほしい。

4　総括

❑アンケートの集計結果と分析

【避難の全体像】

分析の結果、避難をした人が全体の約35%、避難はしていないが自宅で安全確保を図れた人が全体の約49%と、実に約84%の人が適切な避難行動がとれていた一方で、**残りの約16%の人は、相模川の氾濫等の実災害時には逃げ遅れが危惧される行動をとっていた**ことが分かりました。（P.6参照）



❑アンケート結果から見えてきた課題

総合評価で「×」と判定される約16%の人たちが避難できなかった（又はしなかった）要因の大きくは、**「ペット」**と**「移送手段」**の問題です。（P.6.7参照）

また、「△」と判定した約58%の人たちについては、ハザードエリア内に留まっている事実からも、要望事項（P.8参照）に対する対策や風水害時の避難に関する正しい知識の普及によりハザードエリア外への避難を促すことが課題になります。

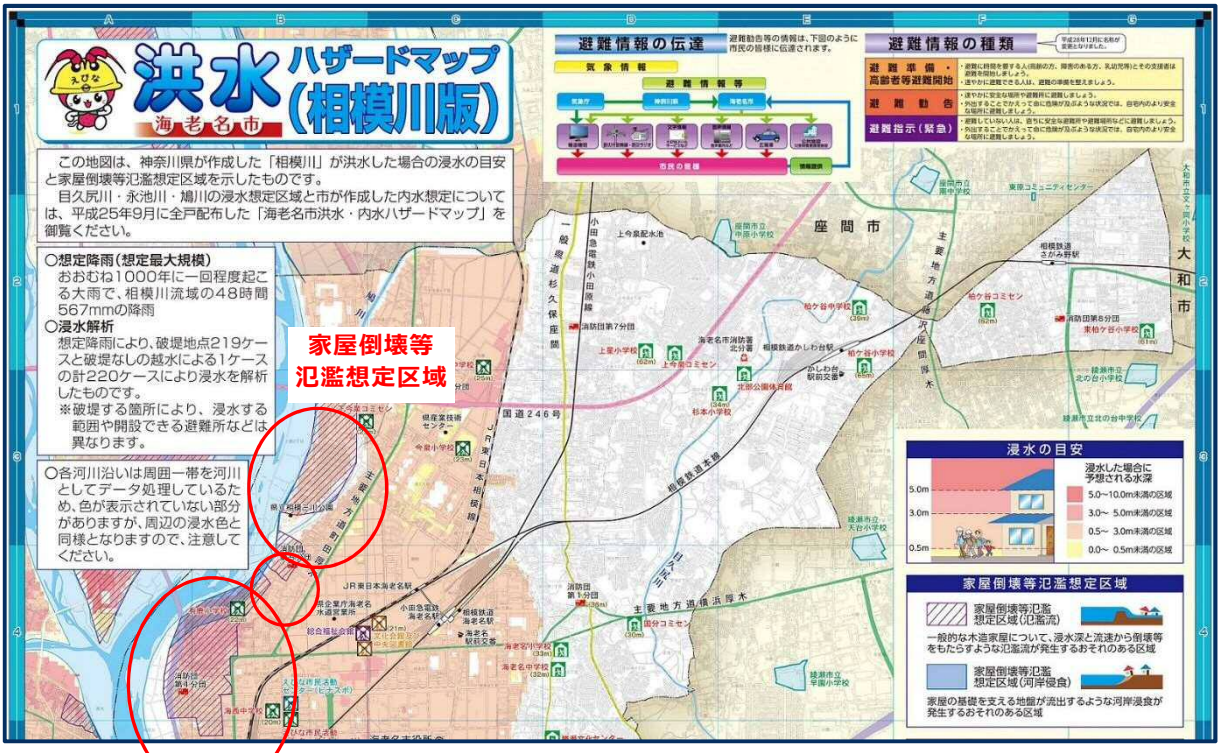
❑今後の対策

●『自主避難』の推奨

風水害対策の究極的な目標は、ハザードエリア内の住民にハザードエリア外に事前に避難してもらうことです。特に、氾濫流や河岸浸食による家屋倒壊等氾濫想定区域※1の住民は、安全な時期に避難を完了してもらう必要があります。

これまでは、高齢で避難に時間を要する方やペットをお連れの方に対して、避難情報での避難を推奨していましたが、今後は雨の降る前や避難情報発令前の安全な時期から、自助・共助により避難所以外に避難する『自主避難』という考え方についても取り組んでいきたいと考えています。『自主避難』のメリットは、それぞれの個別事情に合わせた避難先の選択とリードタイム（避難に要する時間）を確保できることです。そのためには、「避難先＝避難所」といった固定観念を払拭し、実家・親戚・知人宅やホテルなど、避難所より快適で柔軟な避難場所の選択及び移送手段の確保を平素からあらかじめ決めておく必要があります。

『自主避難』の推奨も含め、以下の①から③の対策を実施します。



※１　家屋倒壊等氾濫想定区域とは、氾濫流又は河岸浸食により家屋の倒壊等のおそれがある区域です。

①マイタイムライン又は個別計画の作成推進

自主避難の促進に当たり、全てに共通して言えることがマイタイムラインや個別計画の作成です。適切な避難行動がとれなかった要因は人それぞれですが、危険な状況が切迫するにつれ、公助における対応も困難となります。したがって、マイタイムラインや個別計画の作成を通じて、自助・共助の範囲内で早期に避難行動をとってもらうなど、先を見越した能動的な避難を実現します。

②避難所での訓練と各種マニュアルの見直し

市では、毎年、地震災害を想定し、「避難所運営訓練」を実施していますが、今回の台風で顕在化した、ペットの同行問題や車両での避難など、風水害の特性を考慮した要素を訓練にて検証する必要があります。車両での避難は、要配慮者の移送の問題や車両内に留まることでペットの同行やプライバシーの問題など、解決できることも多く、有効な避難方法として検証する必要があります。また、訓練で検証できた事項については、実践に向けて、避難所の各種マニュアルの見直しを行います。

③防災知識の普及啓発と情報発信

避難行動の促進に関しては、正しい風水害の知識の普及と要望に多くあった情報発信手段の充実・強化が考えられます。風水害時の避難は、ハザードエリアの外に逃げることを鉄則とし、更には、事前の備えや知人・近所相互の呼びかけなど、自助・共助による避難を推進することを併せて実施します。

また、市が発信する情報の意味を正確に伝達するためにも、知識の普及と併せて、切迫した状況における、サイレンなどを活用した情報発信方法などを検討するとともに、住民の避難判断を支援できるよう、避難所のリアルタイム情報など有益な情報提供に努めていきます。